
美殺

のりまき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美殺

【Nコード】

N2097I

【作者名】

のりまき

【あらすじ】

美術部に所属している功はいさおコンクールの締め切りに追われていた。前回の成績を上回るために描くが、刺激が足りないといわれ、苦悩する。

(前書き)

この作品を読むにあたっての注意。

まず、この作品はフィクションです。

その上での、殺人を表現していきます。

気分と言つか、思いつきで過剰になる場合もあるかも知れません。

つまり、殺害模様を描こうというのですから、そこにショッキングな表現の重きが置かれるはずです。

しかしながら、殺害という行為は最悪のものだと言いつことに変わりはありません。

作品として描くわけで、それを肯定すると言つことではないです。

また、性的暴行などは描かないので、R・15とさせていただきます。

あまり過剰にならないよう努めますが、ショッキングな表現が描かれることを理解してもらい、その上で読み進めて欲しいです。

ピチャン……

流し台へ飛び落ちる雫がその身を弾け飛ばした。

その崩壊を功は聞き流す。

黒闇の漂う自室で、彼は頭を抱えていた。泡のように、想像が浮かんでは消え脳裏に霞む。その度に小刻みに震える指先は、妙な畏怯を物語った。それと同時に、赤黒い何か功の中を駆け巡り、吐息を濃く染める。

自分に投げた問いに考えを巡らせた。

入学当時から変わらない道に軌跡を残していく。後ろへと過ぎ去っていくものは、功にとつて単なる過去に過ぎなかった。何の思い入れも存在しない、他人のような過去。

功が刻んできた時間も、その流れ行く景色となんら変わりは無かった。

楽しかったり悲しかったり、度合いは違えど、少なからず誰もがそんな思い出の軌跡を自分の時間に残してきている。もちろん、功も残っていた。しかし、彼にとつてそれは懐かしむほど思い入れの強いものではなく、使い終わったら洗い流す程度のものだった。

だからと言って、功は自ら過去を洗おうと思っただけではなかった。これと違って、特別に損得したわけでもなく、決して深くはないが誰とも気兼ねなく談話できた。

そんな功が美術部に所属しているのは、並々の成績の中で唯一美術の成績が秀でていただけのことだった。

学校の玄関口に貼られたポスターに、功は手を拱いた。

夏休み明けから数週間を経た九月の後半。美術部恒例の市民コンク

ールを知らせるものだった。

思い思いに水辺を描ききった作品を出展し、去年、功は見事に優秀賞を受賞した。これまでで初めて熱中し、そして、最も大きな存在となった過去。それでも功は下唇を噛み、手を拱いていた。

「まだ足りないわ」

顧問の千尋^{ちひろ}は静かに画用紙を返した。

そしてまた、功は紙を折りたたみ自分の持ち場へ戻る。

コンクールの締め切り間近ということもあり、放課後の美術室は活気に満ちていた。普段あまり参加しない部員も、例年のようにこの時ばかりは積極的に参加する。しかし、それでも部活の参加は強制と言うわけではなかった。

基本的に放任主義の千尋は、多くの部員が積極的に参加してきているからといって、何か特別な指導をするわけでもなかった。飽くまでも、生徒の美学を優先させた。自分は相談役であり、生徒の持つ美学の隙間にそっと薬を塗るだけであった。

千尋のそのスタイルに合わせるかのように、生徒たちも思い思いに自分の絵と向き合っている。

しかし、功は前回の成績を上回るために、自分以外の評価を願っているため下書きの段階で千尋から評価を強請^{ねだ}っていた。

千尋も功に限っては、普段の放任主義を逸脱し一人の美術家として評価を受持つてきていた。

それも手伝つてか、他の部員が次々と仕上げに差し掛かるころになっても、功はまだ下書き段階であった。

千尋が赤縁の眼鏡を光らせて口にするのは、刺激だった。

太陽のざわめき、夕立の豪快さ、雷の迎撃。そんな刺激が功の絵からは感じ取れないのだと言う。

「真面目で、配慮のあることはいいことだけど、功くんはとにかく真面目すぎね」

彼女の言葉が煩わしいわけではない。その証拠に、功は彼女の言

葉の全てを受け止める覚悟でいた。

「でも、絵に関しては、逆に不真面目になっていいのよ。荒々しくなっただけで、もっと大胆に描くのよ」

そして、画用紙を返す彼女の次の言葉は決まっていた。

暗黒に包まれ、功は唇を震わせていた。

机の上に重ねられた画用紙に目もくれず、泡のような想像を繰り返していた。

学生としてやらなければいけないことが多くあるが、今の功はそれどころではなかった。期日は一週間を切ろうとしている。それでも、彼の小さな頭では、千尋を納得させる絵が一向に浮かび上がらなかった。

毎日が繰り返しのようで、功の筆が止まりかけてきたある日、珍しく、千尋の方から功の持ち場へ出向いてきた。

「もうコンクールまで時間がないから、次に持ってくる作品がどんなものであっても、塗りに入りなさい」

千尋の眼鏡に映る功は、静かに固まっていた。

「ねえ、功くん。世界が終わりを迎えるとき、自分はどどういうことをすると思う？」

不意に放たれた言葉に、功はそっと見上げた。

心なしか、彼の奇妙に震える指先を見て、千尋は再び口を開いた。「人々」はきつと、良い行いをしたり悪い行いをしたり、またはいつもと変わらないときを過ごすと思うの。でも、「人」という単位で考えた場合、そんな大まかな括りでは納まらないのよ。生まれてきた場所、育った環境、出会った人。そのどれもが全く同じ人なんてありえないでしょ。だから、「人」はそれぞれ違った行動を取るはずよ。世界が終わりを迎えるとき、あなたはどどういう行動を取るのかしら？ その問いの先にあなたの足りない“刺激”がきつとあるわ」

がんばりなさい、と肩に手を沿えると彼女は功に背を向けた。
その背中姿から目を逸らした功は、結局その日、筆を動かすことはなかった。

黒闇の漂う自室で、彼は頭を抱えていた。泡のように、想像が浮かんでは消え脳裏に霞む。その度に小刻みに震える指先は、妙な畏怯を物語った。それと同時に、赤黒い何かが功の中を駆け巡り、吐息を濃く染める。

自分に投げた問いに考えを巡らせた。

締め切り前日の早朝。漸く“刺激”を見つけた功は運動部の朝練にまぎれて、美術室にいる千尋に会いに行った。

「先生、やっと見つけたよ、“刺激”を」

「そう。それじゃあ、漸く塗りに入れるのね」

コンクールで優秀賞を受賞した時のように嬉々とした笑みを見せる功に、千尋は眼鏡越しに目を細めて見せた。

「僕、ずっと考えたんです。世界が終わりを迎えるとき、自分はどいう行動を取るか、という問いを。最初は、なんとなく生きてきた感じだし、いつもと変わらず最期を迎えるんだろうなって思ってたんですけど、それじゃ、今までと何も変わらないと考えたんです。その時わかりました。“刺激”って、たぶん今までにないこと、できなかつたことをすることなんだと思うんです」

功がそこで一旦話を切ると、千尋は小さく頷いた。

「それで、功くんはどんな行動を取るの？」

「僕、初めて夢中になれたものが美術なんです。だから、世界が終わりを迎えるとき、僕は、僕自身の最高の美術を描きたいんです」
彼はそれ以上を語らなかつた。

親身になって自分の絵の評価をしてくれた千尋だからこそ、功は彼女に最初に“最高の美術”を知ってほしかった。見て欲しかった。感じて欲しかった。

世界の終わりなんて、いつかはわからない。明日かもしれないし、一億年後かもしれない。しかし、功にとってのそれはコンクールの期日であった。

「彫刻には興味ないんで、安心してください」

生々しく、荒くはないが大胆に吹雪く。意外にも鮮やかなそれは、彼女の首を見る見る覆っていく。

今まで紙を破ったことのなかった功は、この時初めて紙の破る感覚を味わった気がした。凄く丈夫な紙ではあるが、彫刻刀を使えば、削ることも穴を開けることもできる。

華やかに色染まった千尋を教卓の上に座らせ、自分を突き刺すように彫刻刀を持たせる。そして、彼女に添えるように砂時計や蠟燭を置き、功は漸く自信に満ちた眼差しでキャンパスに筆を置き始めた。

「凄く刺激的だよ、先生」

ピチャン……

【完】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2097i/>

美殺

2010年10月8日14時50分発行